

野菜の需給・価格動向レポート(平成30年10月1日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

※・レポートの読み方については、注意書きを参照してください

種類	8月の価格情報		9月の価格情報			10月の価格情報	9月中旬の関東及び近畿ブロックの入荷量()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	10月の主産地	生育及び価格の10月中旬までの見通し	「図の見方」 平均価格 現時点の価格水準 現時点の価格水準 平均価格(点線)は、レポート期間中に変動する場合があります。	
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格	上旬	中旬					(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格
葉茎菜類	キャベツ	77.90	78	77.90	71	74	77.90	・12.985t (109%)	群馬(48)、千葉(18)	→	群馬産は、出荷終盤を迎える中、順調な生育であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。後続産地である千葉産は、順調な生育であることから、平年並みの出荷の見込み。 8月に入って徐々に値を下げて現在平均並みの価格は、群馬産及び千葉産の出荷が平年並みと見込まれることから、引き続き平均並みで推移する見込み。
		88.91	81	88.91	74	78	88.91	・4.740t (66%)	群馬(49)、長野(25)		
	たまねぎ	102.67	94	81.54	97	98	81.54	・6.779t (98%)	北海道(96)	→	北海道産は、6月下旬以降の長雨・日照不足の影響により産地によって作柄にバラツキがでているものの、総じて平年作であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 北海道産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。
		102.67	98	81.54	96	104	81.54	・2.847t (68%)	北海道(78)		
	ねぎ (関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ)	287.00	347	287.00	372	452	136.25	・2.000t (91%)	北海道(21)、青森(21)	→	北海道産は、台風21号の影響により倒伏や折損により正品率が下がっていることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。青森産は、順調な生育であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 青森産の出荷が平年並みと見込まれるもの、北海道産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、現在平均を上回る価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
		462.77	662	462.77	738	831	467.01	・130t (103%)	香川(45)、徳島(19)		
	はくさい	86.06	97	86.06	96	99	86.06	・6.391t (107%)	長野(76)	→	長野産は、曇雨天により生育が遅延していることに加え、一部で病害が発生していることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。 長野産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
		88.72	99	88.72	93	100	88.72	・3.273t (78%)	長野(95)		
	ほうれんそう	583.95	770	583.95	729	922	423.62	・439t (89%)	群馬(44)、茨城(21)	→	群馬産は、8月の高温期に播種されたものが発芽不良や生育不良であったことから、現在の出荷は平年を下回っているものの、今後は気温が低下した以降に播種されたものとなり順調な生育となっていることから、平年並みの出荷の見込み。茨城産は、曇雨天の影響により生育が遅延していることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。 茨城産の出荷が平年を下回ると見込まれるもの、群馬産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、平均に近づくもの、引き続き平均を上回って推移する見込み。
		670.86	826	670.86	831	921	507.91	・152t (45%)	岐阜(60)、和歌山(12)		
	レタス(結球)	158.27	117	158.27	130	130	158.27	・5.275t (101%)	茨城(59)、長野(26)	→	長野産は、出荷終盤を迎える中、曇雨天の影響で一部に病害がでていることに加え、生育が前進して切り上がり早まることから、現在の出荷は平年並みであるものの、今後は平年を下回る出荷の見込み。後続産地である茨城産は、順調な生育であることから、平年並みの出荷の見込み。 8月に入って徐々に値を下げて現在平均を下回る価格は、茨城産の出荷が平年並みと見込まれるもの、長野産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、今後は平均並みで推移する見込み。
		152.57	123	152.57	141	140	152.57	・1.619t (56%)	長野(53)、茨城(30)		
果菜類	きゅうり	232.28	389	232.28	384	390	289.03	・4.275t (96%)	埼玉(27)、群馬(27)	→	埼玉産及び群馬産は、最近の曇天で生育が遅延していることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。 埼玉産及び群馬産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
		244.44	402	244.44	389	409	298.96	・1.110t (44%)	佐賀(24)、群馬(19)		
	トマト(大玉)	265.08	451	265.08	459	434	364.78	・4.092t (82%)	千葉(20)、福島(15)	→	千葉産は、8月の高温の影響で着果不良の段となっていることに加え、病害も発生していることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。福島産は、最近の曇天の影響で着色が遅れていることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。 千葉産及び福島産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
		298.46	432	298.46	487	419	371.67	・1.705t (57%)	岐阜(28)、北海道(23)		
	なす	242.04	299	242.04	366	483	301.00	・1.854t (87%)	高知(35)、群馬(25)	→	高知産及び群馬産は、最近の曇天により生育が遅延していることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。 高知産及び群馬産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
		232.81	269	232.81	329	452	263.21	・365t (28%)	高知(30)、山梨(16)		
ピーマン	276.76	497	276.76	449	415	276.76	・1.318t (111%)	茨城(61)、岩手(20)	→	茨城産及び岩手産は、7月中旬以降の高温・少雨で樹勢が低下している中で、最近の曇天により生育が遅延していることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。 茨城産及び岩手産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。	
	296.27	500	296.27	457	431	296.27	・416t (60%)	青森(23)、茨城(16)			
根菜類	だいこん	94.60	98	94.60	106	106	67.55	・4.347t (92%)	北海道(32)、青森(30)	→	北海道産及び青森産は、順調な生育であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 北海道産及び青森産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。
		90.60	93	90.60	100	105	76.48	・1.787t (61%)	北海道(34)、石川(32)		
	にんじん	123.08	131	123.08	136	180	123.08	・3.330t (83%)	北海道(93)	→	北海道産は、6月下旬以降の長雨・日照不足による生育停滞等に加え、7月中旬以降の高温・少雨の影響で小ぶりになっていることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。 府県産の流通在庫が徐々に減少する中で、9月に入り値を上げて現在平均を上回る価格は、北海道産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、引き続き平均を上回って推移する見込み。
123.11		129	123.11	138	179	123.11	・1.371t (52%)	北海道(99)			

注：1 平均価格は、過去6カ年(平成23~28年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格であり、農林水産省で公表している「野菜の生育状況及び価格見通し」における平年価格(平成25~29年)とは異なる。
2 旬別平均販売価格の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで平成29年実績である。
5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したもの。
6 関東・近畿ブロック以外の平均販売価格は、機構HPに掲載しているのので下記URLを参照。
URL: https://www.a1ic.go.jp/y-kofu/yagyomu02_000019.html
7 今般の台風により生育・出荷に影響が生じる可能性があります。

1 主要野菜の生産出荷状況

※・レポートの読み方については、注意書きを参照してください

種類	8月の価格情報		9月の価格情報		10月の価格情報		9月中旬の関東及び近畿ブロックの入荷量 ()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	10月の主産地	生育及び価格の10月中旬までの見通し	
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック別平均販売価格	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック別平均販売価格	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック別平均販売価格				
いも類	さといも	280.27	328	280.27	285	299	232.02	・391t (100%)	埼玉(51)、千葉(26)	生育が遅延していることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。干葉産は、最近の曇雨天の中、病害が発生していることから、現在平年並みの出荷は、今後は平年を下回る出荷の見込み。
		(117%)	(102%)	(107%)						
	いも	242.12	249	242.12	195	339	228.44	・67t (34%)	愛媛(51)、宮崎(12)	埼玉産及び干葉産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、現在平均を上回る価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
ばれいしょ	117.36	122	117.36	123	120	92.33	・3,114t (80%)	北海道(98)	北海道産は、6月下旬以降の長雨・日照不足や7月中旬以降の高温・少雨の影響により一部が小玉傾向となっていることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。府県産の流通在庫が徐々に減少する中で、現在平均並みになっている価格は、今後は平均を上回って推移する見込み。	
	(104%)	(105%)	(102%)							
		117.36	139	117.36	128	120	92.33	・1,371t (52%)	北海道(98)	
		(118%)	(109%)	(102%)						

注：1 平均価格は、過去6カ年(平成23～28年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格であり、農林水産省で公表している「野菜の生育状況及び価格見通し」における平年価格(平成25～29年)とは異なる。
 2 旬別平均販売価格の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
 3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
 4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで平成29年実績である。
 5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聞き取りをもとに機構が作成したものである。
 6 関東・近畿ブロック以外の平均販売価格は、機構HPに掲載しているもので下記URLを参照。
 URL: https://www.alic.go.jp/y-kofo/yagyomu02_000019.html
 7 今般の台風により生育・出荷に影響が生じる可能性があります。

1 主要野菜の生産出荷状況(特定野菜)

種類	8月の価格情報		9月の価格情報		10月の価格情報		9月中旬の東京及び大阪市場の入荷量 ()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	10月の主産地	生育及び価格の10月中旬までの見通し	
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	東京都・大阪市場の旬別価格	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	東京都・大阪市場の旬別価格	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	東京都・大阪市場の旬別価格				
洋菜類	ブロッコリー	384.87	561	384.87	596	578	286.55	・345t (83%)	北海道(32)、埼玉(17)	北海道産は、出荷終盤を迎える中、7月中旬以降の高温で病害がでていることや、台風21号で傷みがでて正品率が下がっていることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。後続産地である埼玉産は、最近の曇雨天で病害が発生していることから、平年を下回る出荷の見込み。北海道産及び埼玉産の出荷が、平年を下回ると見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
		(146%)	(155%)	(150%)						
		412.22	568	412.22	588	579	357.11	・135t (107%)	北海道(45)、長野(22)	
		(138%)	(143%)	(140%)						

注：1 平均価格は、過去5カ年(平成25～29年)の東京都及び大阪市中央卸売市場の価格。
 2 旬別価格は、上段は東京都中央卸売市場、下段は大阪市中央卸売市場であり、単位は円/kgである。
 3 旬別価格の赤字及び青の背景は、平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は平均価格を80%を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
 4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで平成29年実績である。
 5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聞き取りをもとに機構が作成したものである。
 6 関東・近畿ブロック以外の平均販売価格は、機構HPに掲載しているもので下記URLを参照。
 URL: https://www.alic.go.jp/y-kofo/yagyomu02_000019.html
 7 今般の台風により生育・出荷に影響が生じる可能性があります。

2 野菜の輸出入動向 ー 野菜の輸出入数量と主な生鮮野菜の輸出入について ー

○輸入について

貿易統計によると、平成30年8月の生鮮野菜の輸入量は、6万6千トン(前年同月比117%)となった。また、加工野菜は、15万8千トン(同100%)であり、野菜全体では、22万4千トン(同104%)となった。このうち、中国産の輸入数量は合計で12万トン(同104%)と輸入量の54%を占めた。
 8月の生鮮野菜の輸入量は、6月下旬以降の長雨・日照不足や、7月中旬以降の高温・少雨の影響により国産野菜の出荷量が減少したことから前年を大幅に上回った。

当月における品目別の動向をみてみると生鮮野菜で輸入量が第1位のたまねぎは、2万2千トン(同93%)、第2位のにんじんは8千トン(同133%)、第3位のキャベツは6千トン(同425%)となった。たまねぎは、府県産の流通在庫があったことに加え、北海道産の生産が概ね順調であったため輸入が減少し、また、にんじん及びキャベツは、6月下旬以降の長雨・日照不足や、7月中旬以降の高温・少雨の影響により国産の出荷量が減少したことから増加した。

今後の輸入量は、9月に入り曇雨天の日が多いことから、国内野菜の出荷量が減少することが懸念され、その場合には輸入の増加が予想される。

○輸出について

8月の輸出量は、生鮮野菜は764トン(同62%)、加工野菜は1,207トン(同110%)となり、野菜全体では1,971トン(同85%)と減少した。

当月における品目別の動向をみてみると、生鮮野菜で輸出量が第1位のながいもは、引き続き好調であり、輸出量は474トン(同182%)となった。主な輸出先第1位の米国は、薬膳食として珍重されている台湾での評価が華僑ネットワークを通じて米国に渡り広がりをみせていると考えられる。一方、前年第1位であったキャベツ等は、前年が我が国で豊作傾向のため出荷量が増加したが、本年は7月中旬以降の高温・少雨で出荷量が減少したことから、本年は第3位となり輸出量は63トン(同10%)となった。

野菜の輸入数量

野菜全体の輸入量(平成30年8月)

区分	平成28年		平成29年		平成30年	
	前年比	前年比	前年比	前年同月比	前年同月比	
生鮮野菜	58,390	108	56,856	97	66,420	117
加工野菜	157,734	112	157,862	100	157,959	100
野菜合計	216,124	111	214,718	99	224,379	104
うち中国産野菜合計	113,352	108	115,852	102	120,218	104
中国産シェア	52		54		54	

主な生鮮野菜の輸入先(平成30年8月)

品目	輸入合計	1位						2位						3位					
		前年同月比	国名	数量	国名	数量	国名	数量	国名	数量	国名	数量	国名	数量	国名	数量			
たまねぎ	21,924	93	中国	21,325	アメリカ	303	オーストラリア	180											
にんじん	8,208	133	中国	8,077	オーストラリア	109	アメリカ	18											
キャベツ	6,062	425	中国	5,972	韓国	79	アメリカ	10											
ねぎ	5,305	107	中国	5,305	-	-	-	-											
ごぼう	3,831	98	中国	3,818	台湾	13	-	-											
ジャンボピーマン	3,133	104	オランダ	1,757	韓国	1,351	カナダ	20											
にんにく	2,504	98	中国	2,276	スペイン	196	アメリカ	29											
その他根菜類	2,296	566	中国	2,273	オランダ	12	オーストラリア	10											

同(平成29年8月)

品目	輸入合計	1位		2位		3位	
		国名	数量	国名	数量	国名	数量
たまねぎ	23,473	中国	23,190	オーストラリア	170	ニュージーランド	77
にんじん	6,187	中国	6,024	オーストラリア	152	アメリカ	8
ねぎ	4,975	中国	4,975	-	-	-	-
ごぼう	3,918	中国	3,860	台湾	58	-	-
ジャンボピーマン	3,001	オランダ	1,679	韓国	1,306	カナダ	16
にんにく	2,568	中国	2,426	スペイン	119	アメリカ	19
メロン	1,768	アメリカ	1,709	韓国	55	オーストラリア	4
ばれいしょ	1,732	アメリカ	1,715	中国	17	-	-

野菜の輸出数量

野菜全体の輸出量(平成30年8月)

区分	平成28年		平成29年		平成30年	
	前年比	前年比	前年比	前年同月比	前年同月比	
生鮮野菜	994	117	1,233	124	764	62
加工野菜	885	110	1,100	124	1,207	110
野菜合計	1,878	114	2,332	124	1,971	85

主な生鮮野菜の輸出先(平成30年8月)

品目	輸出合計	1位		2位		3位	
		国名	数量	国名	数量	国名	数量
ながいも	474	アメリカ	217	台湾	195	シンガポール	51
メロン	84	香港	79	マカオ(葡)	3	マレーシア	1
キャベツ等	63	香港	40	シンガポール	19	タイ	3

同(平成29年8月)

品目	輸出合計	1位		2位		3位	
		国名	数量	国名	数量	国名	数量
キャベツ等	646	台湾	589	香港	37	シンガポール	18
ながいも	260	台湾	118	アメリカ	98	シンガポール	41
きのこ(その他、はらたけ属以外)	100	台湾	61	香港	24	タイ	8

資料:農畜産業振興機構「ベジ探」(原資料:財務省「貿易統計」)
 ※平成29年1月以降、関税法の統計品目番号の変更により、「にんじん及びかぶ」が「にんじん」と「かぶ」に分離・集計されています。
 ※四捨五入の関係上、合計と各計の数字は一致しないことがあります。

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 斎藤、山田、長島 TEL03-3583-9793、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。
 ◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方は当機構のホームページのトップ画面、メールマガジンから登録してください。
 ★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.htmlに掲載しています。
 ※無断転載せず ・レポートに記載された情報をご利用になったことにより生じたいかなる損害に関して、当機構は一切の責任を負いません。